

満1歳で～す！



奥島裕樹さん(尻労)の
長女 彩葉ちゃん



中野孝夫さん(入口)の
長女 愛菜ちゃん

戸籍のまど (9月届出分)

★お誕生おめでとう

相内 奏太(元太)老部
蝦名 蒼斗(貴広)砂子又
蝦名 瑛斗(貴広)砂子又
畑中 茉音(勇樹)尻労

★ご結婚おめでとう

奥島 一典(目名)
松本 蘭(むつ市)

★お悔やみ申し上げます

畑中 龍太郎(小田野沢)
島中 麻有実(外ヶ浜町)
馬場 信悦(小田野沢)
上路 育子(むつ市)

※個人のプライバシーを尊重する意味で載せては
しくない方は届出の際に係に申し出てくださる
ことをお願い致します。

坂本 登(小田野沢)	94歳
二本柳 きみ(小田野沢)	86歳
相馬 律子(小田野沢)	85歳
石谷 忠二(尻屋)	83歳

ひがしどおりのさんぽみち

タイトル: 藍の生葉天然染め
情報提供者: 榊 末子さん(小田野沢)

今回のさんぽみちは、小田野沢地区にお住いの榊末さんが制作する「藍の生葉天然染め」の紹介です。



榊さんが「藍の生葉天然染め」を始めることになったのは、弘前市の「津軽天然藍染研究会 川崎染工場」の特集をテレビで見たことがきっかけでした。

興味を持った榊さんは、自ら川崎染工場に連絡し、直接、染め方や藍の栽培方法を聞き出します。「生葉染め」には新鮮な藍の葉が必要だという事を知り、一般的な「丸葉藍」のほか、青森県での栽培に適した「ちぢれ藍」という品種を栽培。そして、自らが栽培した藍の葉で試行錯誤を繰り返しながら制作しているとのこと。

藍の「生葉染め」は、私たちがイメージする濃い藍色の「建て染め」とは違い、「きれいな水色」が特徴です。また、天候などで色合いが変わるため、その淡い色の違いを楽しむのが生葉染めの醍醐味だとか。榊さんの作品は、レストハウスでも常時販売していますので、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか？

- ① 藍を栽培し、葉を摘み取ります
- ② 新鮮な藍の葉の汁に絹を漬けます
- ③ 浸漬(20数分間)した後、余分な絞り汁を洗い流します
- ④ 日陰で干して完成
- ⑤ レストハウスでは、榊さんの作品も常時販売しています

